

小値賀町 古民家再生事業

自治体情報

人 □ 3,020 人

標準財政規模 1,825,191 千円

担当課 長崎県 小値賀町 産業振興課

電話 0959-56-3111 内線 (36)

ホームページ <http://www.ojika.net>

事業期間 平成 21 年度から平成 23 年度まで

参考とした施策

関係施策分類 ④

施策の概要

1 取り組みに至る背景

小値賀町には、太古の昔から人々が連綿と営みを続けた歴史・文化とそれを支えて来た恵まれた自然環境が残されてきた。

近年当町は、離島という条件化において、疲弊した基幹産業の農漁業と少子高齢化により、過疎が進んだ。しかし、そういった状況の中、町内の中学生の 30%が「小値賀に残りたい」という結果に希望を見つけた。子供たちが残れる環境づくりが急がれてきた。そういった中、全国ネットのテレビの取材で、国土交通省の「YOKOSO JAPAN 大使」でもある東洋文化研究者の『アレックス・カー氏』が当町を訪れ、小値賀の自然環境の素晴らしさに惚れ込み、「この島は奇跡の島だ」とまで表現し、いかにしてこの島の資源を活かした事業がないのかと模索し、町有財産であった大型古民家の『旧藤松邸』に目を留めた。そこから『旧藤松邸』の利活用だけ考えていた今プロジェクトは予測しなかった方向へと進むことになった。それは町内に点在する古民家の再生である『大型古民家再生事業』である。



▲屋敷から庭園の奥を眺める（格子戸）

▲邸宅専用の渡止場から望む

▲噴後する巨大歪熱帯樹

▲回廊下からの庭園の眺め

▲奥座敷の編組

2 事業内容（目的・目標・方策）

- ・上記のような今までにない小値賀の産業を起こすことによって、雇用の場が創出され、若い世代の定住化へ結び続けようと考え、また、「おぢか島暮らし大人の滞在型町づくり」を行政、NPO 及び民間と協働で促進している状況にあったため、今回の町内の「大型古民家再生事業」を起爆剤として、更なる交流人口の拡大戦略へ展開を図っている。交流人口の増大によって第 1 次産業を巻き込んだアイランドツーリズム事業が促進され、地域の活性化へ結びつくことを目的とする。
- ・20 年度に国等の補助を得て、11 戸の古民家を基礎調査し、21 年度においては、本事業のコアなる旧藤松邸の地産地消古民家レストランを中心に、他に 4 戸の古民家を国庫補助事業等で再生する予定である。
- ・同時にソフト事業として、地産地消レストランのメニュー開発やレストラン及び古民家事業の運営についてのノウハウの研修などが挙げられる。

3 施策の開始前に想定した事業効果

- ・アレックス氏によるプロデュースは、当町の『観光まちづくり大使』へも就任いただいている関係で、氏の日本国内外の講演会ですでに、小値賀の PR 戦略は始まっている。
- ・さらに、氏が本当に小値賀の魅了されていることにより、これまで以上に、さまざまな場所に於ける PR 活動も大きな成果になると考える。

4 導入にあたり工夫・苦労した点、課題、対処法など

- ・アレックス氏のプロデュースしたこの事業に、かなりの事業費がかかる調査結果がでた。当然、議会は町の財政状況が厳しいこともあり、最初は反対する議員もいたが、議会と行政と民間が何度も協議を続け、プロデュースの価値観が理解され、全てではありませんが一応の承諾を得た。
- ・住民から、まだまだこの事業の総意は得ていないと考える。自立の道を選択した当町にとって、その道の行く末が不透明になるのではという、危機感が芽生えていたかもしれない。アレックス氏の2度にわたる講演・シンポジウムや広報紙やメディアの活用によって少しずつ浸透していったようである。
- ・まだまだ住民への説明が足りないかもしれないが、地域説明会やツーリストと住民と交流する機会が増え、第1次産業と連携をとった、アイランドツーリズムがより効果的に推進されることによって、やってみて理解していただけるものと考えている。
- ・なお、民間と行政によるプロジェクトチームの会議を20数回開催し、垣根を越えたチームワークも特記しておく。

⑬筒井浦一旧藤松家



▲旧藤松母屋の全景



▲木戸から奥の座敷を望む

▲しっかりとした梁が見える中二階

5 現在の成果・実績、今後の展開など

- ・現在の成果としては、まだこれからなので具体的に難しいが、メディアが熱く注目しており、また、地産地消レストランの季節にあった料理のメニュー作り等ほぼ固まりつつあり、それらの活用によっては、大きな一歩となる。
- ・マス観光を目指さない、小値賀オリジナルの観光産業への移行の年であると位置づけている。
- ・『島に暮らすような旅をする』をコンセプトとする今事業は、小値賀再生の大きな鍵を握っている。

観光まちづくり拠点施設（平成21年度事業）

1. 地産地消古民家レストラン施設整備事業（農山漁村活性化プロジェクト支援交付金）

小値賀島の旧家（藤松家）を再生し、地産地消古民家レストラン及び各種体験施設として整備（H21年度）

★古民家再生のアレックス・カー氏率いる協力がプロデュース

1) 事業費：73,437千円 交付金 32,203千円 町 41,234千円

2) 面積：391.66㎡

3) 施設概要：廊下、和室（食事・体験用）、オフィス、ホール 他



2. 島暮らし体験滞在交流施設整備事業（離島体験滞在交流促進事業補助金）

小値賀島の漁村と農村に点在する旧家（旧近藤邸、旧栗田邸）を再生し、地域の歴史や文化を主眼とした体験滞在交流施設として整備（H21年度）

★古民家再生のアレックス・カー氏率いる協力がプロデュースし、総合で見られないゆっくりとした非日常空間を体験し、中・長期的に体験滞在に結びつける

1) 事業費：65,888千円 国補助金20,000千円

町 45,888千円（総額費45,800千円予定）

2) 面積：旧栗田邸（漁家古民家）92.14㎡

旧近藤邸（農家古民家）185.61㎡

3) 施設概要：体験交流室、台所、浴室、便所



予算関連データ 小値賀町

総額 ①～⑤の計	財源内訳(財源区分：①～⑤)				
	①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
139,324千円	52,203千円	0千円	45,800千円	0千円	41,321千円
①～④の名称・所管等	名称	①地産地消古民家レストラン施設整備事業②島暮らし体験滞在交流施設整備事業			
	所管	①農林水産省・農産漁村地域活性化支援室②国土交通省離島振興課			
	金額	① 32,203千円 ② 20,000千円		45,800千円	
	補助率	② 1/2 以内			